

分水建設の功労者田沢実入 桜を植えた山宮半四郎

2022年7月30日
燕大学

信濃川大河津資料館 樋口勲

水害の頻発

江戸時代～

- 1757年:宝暦の横田切れ
- 1896年:明治の横田切れ
- 水害頻度は3年に1回

壊滅

請願活動

江戸時代～

- 170名超の請願者
- 私財を投じた活動
- 大河津分水を諦めない

不許可

第1期工事

1870(明治3)年～
1875(明治8)年

- ほぼ人力で通水寸前まで掘り進む
- 川幅は現在の1/5程度
- 費用、技術的な問題多発

中止

横田切れ

壊滅

第2期工事

1907(明治40)年～
1927(昭和2)年

- 大型機械・先端技術を駆使
- 分水路掘削と堰の建設
- 1922年8月25日通水！



大河津分水 通水100周年

地すべり
冬季風浪

自在堰陥没

壊滅

補修工事

1927(昭和2)年～
1931(昭和6)年

- 青山・宮本の陣頭指揮
- 洗掘防止のための床留・床固の建設も実施

大河津分水
完成

「枕草子」の刊行以来（第1版）、「北越新聞」（昭和40年3月6日）より作成、新字・旧字が別々かつものは訂正を加えた。



田沢実入

①第1期工事の中止

田沢実入が子どもの頃に工事が中止に…。
悲しむ人たちをたくさん見て来た…。



②父の死

東京にて大河津分水請願中に父が危篤…。
「大河津分水を実現してくれ」の遺言を聞き遂げた。



③横田切れ

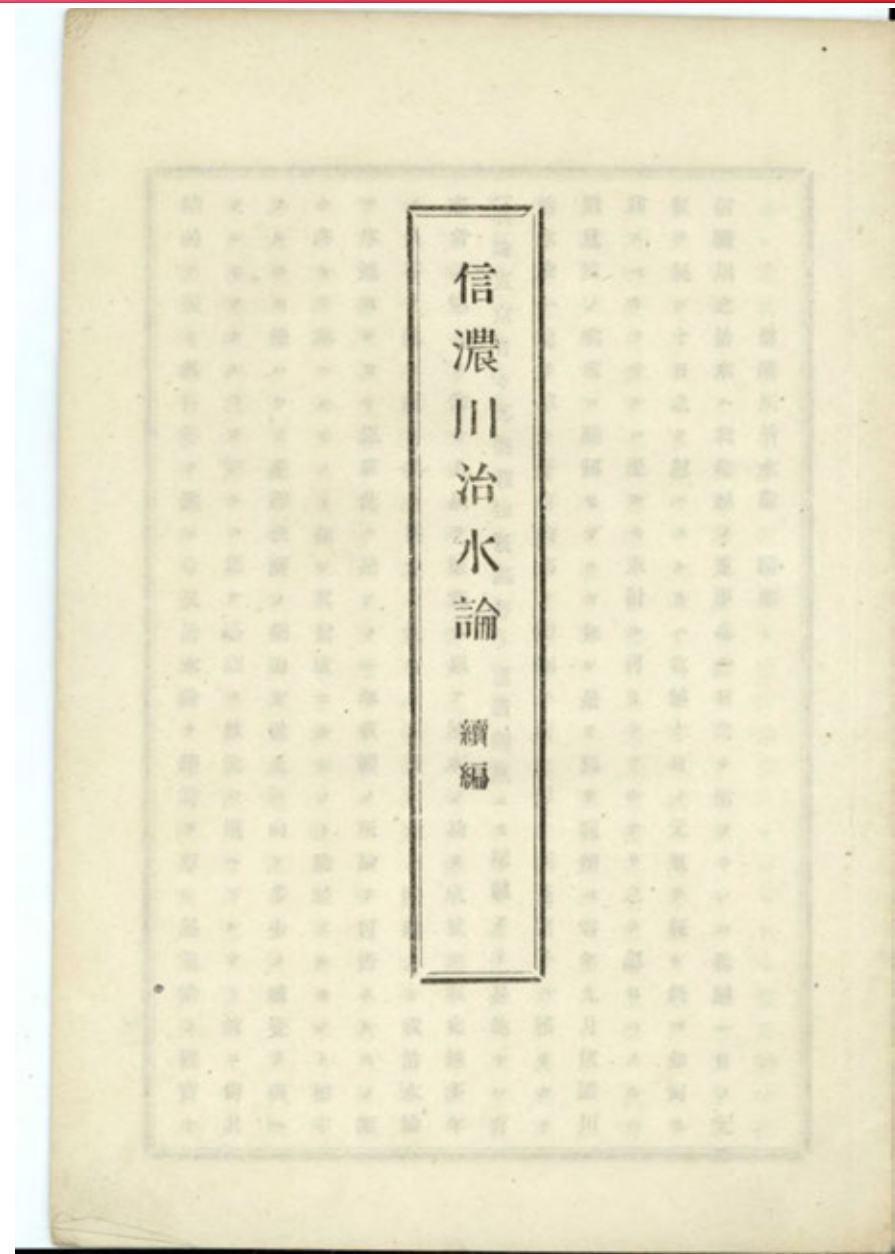
岐阜県で河川工事に従事中に大きな被害が…。
苦しむ新潟の人々の声が届いた…。



多くの人たちの想いを実現したい…

田沢実入年表

年	できごと	年齢
1852(嘉永5)	庄屋与一郎(当時30歳)の子として古川村(白根市)に生まれた。	0
1865(慶応元)	与一郎は新発田藩主の命に依って同役の上田幸助と江戸に出て幕府に対し、大河津分水の工事を請願した。	13
1868(明治元)	5月に信濃川大洪水。20日間にわたり越後平野は浸水した。追い打ちを掛けるように北越戊辰戦争が発生。8月になり戦争が終結に向かい始めたのを機に父与一郎や有志らは大河津分水工事の開始を盛んに新政府等に請願した。	16
1869(明治2)	9月17日、政府が財政の逼迫等により分水工事延期を命令。これを受けて父与一郎ら有志は資金の調整に奔走。	17
1870(明治3)	5月17日、大河津分水工事(第1期工事)着工。	18
1870年(明治3)	7月7日、大河津分水工事(第1期工事)起工式。	18
1870(明治3)	大河津分水工事(第1期工事)において、与一郎は用弁係として工事に従事し、この工事の中止後も分水工事の復活のため努力した。	18
1875年(明治8)	大河津分水工事(第1期工事)廃止。	23
1879年(明治12)	中蒲原郡書記拝命、勸業博覧会出品係を命ぜられる。	27
1881年(明治14)	中蒲原郡書記辞職。「信濃川治水論」発表。	29
1881(明治14)	14年9月、市島正内、須田勝十郎、田沢実入三人の名義で印刷されたのが『信濃川治水論』	29
1882年(明治15)	信濃川分水会社創設(のち信濃川治水会社に改める)。「信濃川治水論続編」発表。	30
1883(明治16)	新潟県議会議員(中蒲原郡区)に当選。31歳。実入は県議として治水のために活動、この間の実入のことは、『新潟県議会史 明治編一』(平成13年12月27日発行 新潟県議会)にかなりの記事が見受けられ、明治17年通常会で実入の自己の生家を含めて「日本に豪農なり、金持ちあり、農夫の上前とりだけなり」との発言が紹介されている。	31
1883(明治16)	与一郎、61歳で病没。子の実入にその志が引き継がれた。実入は若くして父の生前から治水運動に従事、東京や京都を往来し、また、「新潟新聞」に「治水説」「凶荒予備之法無クンバ可カラズ」等の投稿を行い、その名を知られていた。	31
1886(明治19)	19年3月、実入は2期目の県議会当選を果たすが、12月には辞職、新潟県庁土木課職員になった。	34
1887(明治20)	新潟県庁土木課勤務(明治20年～23年)会議課長となるが、22年信濃川堤防改築工事不正に伴う処分として非職(今の休職-俸給の三分之一は三箇年間支給された)になった。その後、一時「浪人」した。	35
1891(明治24)	長野県土木課勤務。以後、内務省広島土木監督署。岐阜県属。高知県土木課長。岐阜県第二課長(後掲、大竹貫一岐阜県調査時)、東京市土木部長(後掲、田沢実入の「新潟県民に告ぐる文」は東京勤務時のものである)、山梨県土木課長、愛知県土木課長を歴任、各県の土木行政に当たった。	39
1893年(明治26)	内務省に勤める(広島土木監督署)。	41
1896年(明治29)	岐阜県第二課長。木曾三川大水害。新潟県では横田切れ発生。大竹貫一木曾三川水害視察。	44
1900年(明治33)	東京市土木部長。	48
1901年(明治34)	「大河津分水に就いて新潟県民に告ぐ」を新聞に発表。	49
1907年(明治40)	大河津分水工事(第2期工事)着工。この頃に大河津分水工事の信濃川落水工場主任囑託。	55
1911(明治44)	大河津分水工事「信濃川地藏堂工場主任」	59
1912(明治45)	大河津分水工事「信濃川落水工場主任」	60
1916(大正5)	大河津分水工事「弥彦碎石工場主任」	64
1922(大正11)	8月25日、大河津分水通水。	70
1923(大正12)	内務省辞職。71歳。	71
1924(大正13)	「信濃川大河津分水保勝会」初代会長に就任。大河津分水工事竣工式準備に関する事務職託をとかれた。	72
1924年(大正13)	大河津分水工事(第2期工事)竣功式。	72
1927年(昭和2)	大河津分水で自在堰が陥没。代替りの可動堰等を建設するための補修工事着手。	75
1928年(昭和3)	4月2日、逝去。76才。	76



寄

書

大川河分水に就て

新潟縣民に告ぐ

在京 田澤 實入

大川河分水の問題は遠く其因原を享保年間
に遡し爾來緒續元治慶應に至れり、今を去
ること三十六年前慶應元年田澤與一郎、上
田幸助の二人河主溝口氏の命を奉り、總代
として江戸に歸り、越後國三島郡大河津村
より同郡須達村の海岸に至る二里七町の間
を開鑿して、新渠を河上信濃川を分流せし
めて北海に注ぎ、以て汎濫氾濫の害を防ぐ
んことを幕府に出願したり、幕府倒れて明
治の臨代に及び、同憂の士高橋健三、山縣
新司、高岡永三、鷺尾政直、市島謙之助、
佐藤又市、柏雄次郎、笹川孫之丞、吉澤原
義、田中勘左衛門、涌井三郎、澁川仙右衛
門、外山敬四郎、大矢益之助、富樫萬吉、
田中良八、田中保、眞柄友次郎、市島正中
山田半三、金原藤彌、永井長藏、須田孫十
郎、五幣次郎吉、萩野左門の諸氏之に加は
り明治二年に至り、漸く政府の採納するど
ころとなり、經費約百萬圓と激算し、其上
十五萬圓は國庫其二十五萬圓は民費支出と
なし、茲に始めて工事に着手することを決
たり、爾後辛苦勞苦五十年の長きに涉り、
幾んど上下の費途は事實上凡二百萬圓
を越たりしが、明治七年に至り端なく事業
廢止の不幸に際會せり、然れども信濃川は

ざる場合に遭遇せりと爲す所以なり、遂に
新潟縣人の爲に寒心す可き一大事に非らず
や、當局者も亦此に鑑るところあり、再
び大河津分水の是非に付き調査研究を怠ら
ざりしが、其結果愈必要の工事と認め其經
費約六百九十萬圓を十餘年に支出するの見
込を立て其豫算案は目下内務省より大藏省
に廻付せりと聞く果して然らば大河津分水
の事は中古に發企以來三十六年の星霜を経
て今や再び其機運に際會せしものと言ふ可
し、然れども民間には經濟界の不振を叫び
府政は財政の困難を囑らし已定の事業をさ
へ繰延べんとする今日に於て、假令内務省
が提案せしとするも、大藏省が直に之に同
意するや否は容易に豫測す可らず、否今日
の形勢寧ろ同意せざるを察せざる可らず、
分水事業の死活は實に大藏省が同意すると
否に由るのみならず、二には衆議院三には
貴族院の關門あり、大河津分水事業の運命
は實に此三關門を無事に通過せざるべから
ず、而して尤も至難なるは第一の關門なる
大藏省の同意にあり果して然らば六百九十
萬圓の豫算案が大藏省の關門を通過すると
否とは即ち分水事業の死活の別るところ
にして、換言すれば新潟縣水害地人民が數
十百年の間望んで果さざりし根本的治水事
業の成否は此一舉に依りて定まるものと云
はざるべからず、新潟縣水害地人民殊に治
水有志家を以て平常自任する人士益々奮
力を其通過に努めざる、今日は徒らに袖手
坐視仰て當局者の爲すに任せ專制時代の百



大竹貫一

横田切れ当時は衆議院議員

- 横田切れの絵を描かせた？！
- 横田切れの写真を撮らせた？！
- 内務大臣の新潟視察を実現



田沢実入

横田切れ当時は内務省職員

- 大河津分水の計画の情報あり？！
- 大竹貫一と意思疎通？！
- 新潟新聞に奮起を促す文を掲載



100年前

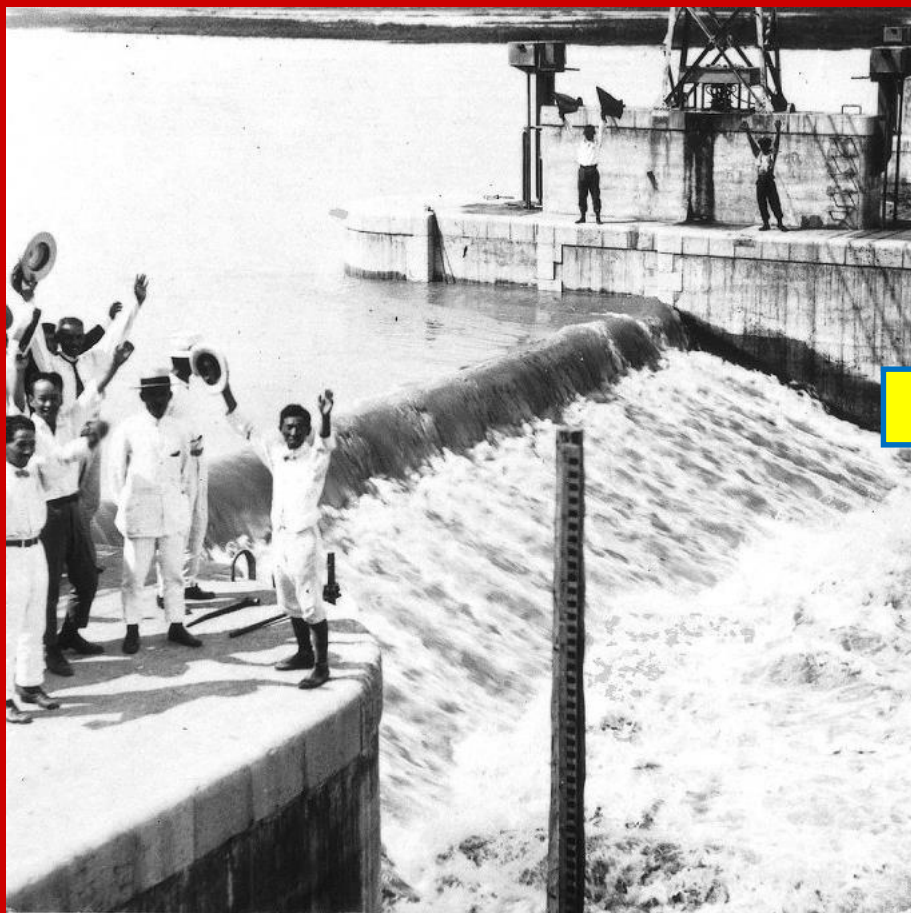


今



- 洗堰の建設中。堰柱のコンクリート打設中の写真。
- 昭和32年に嵩上げた洗堰。平成12年まで稼働。
- 現在は登録有形文化財として保存されている。

100年前



今

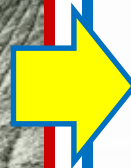


- 大正11(1922)年8月25の通水時に撮影された写真。
- その後、通水からわずか5年後に陥没し撤去。
- 角が丸みを帯びた堰柱の一部が残っている。

100年前

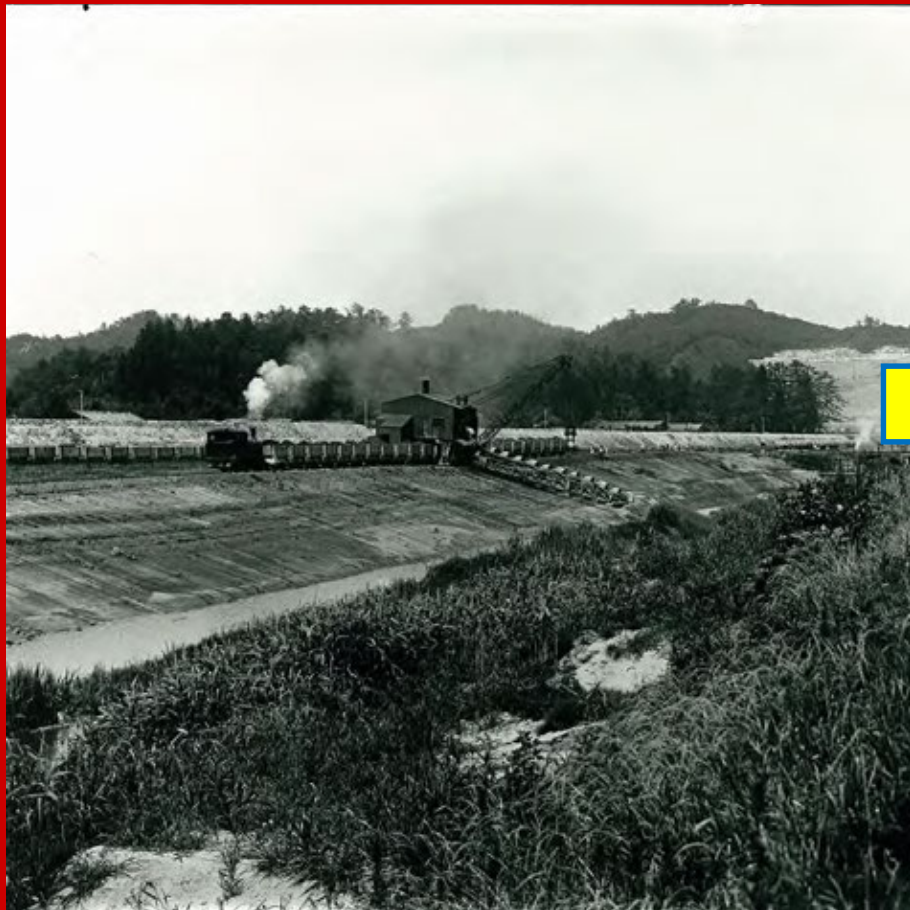


今



- 大正8(1919)年頃に撮影。農地だった場所に築いた堤防が延々と続いている。
- 河川敷に敷かれた工事用のレールも確認できる。
- 現在は桜の解説看板や遊歩道が整備。

100年前

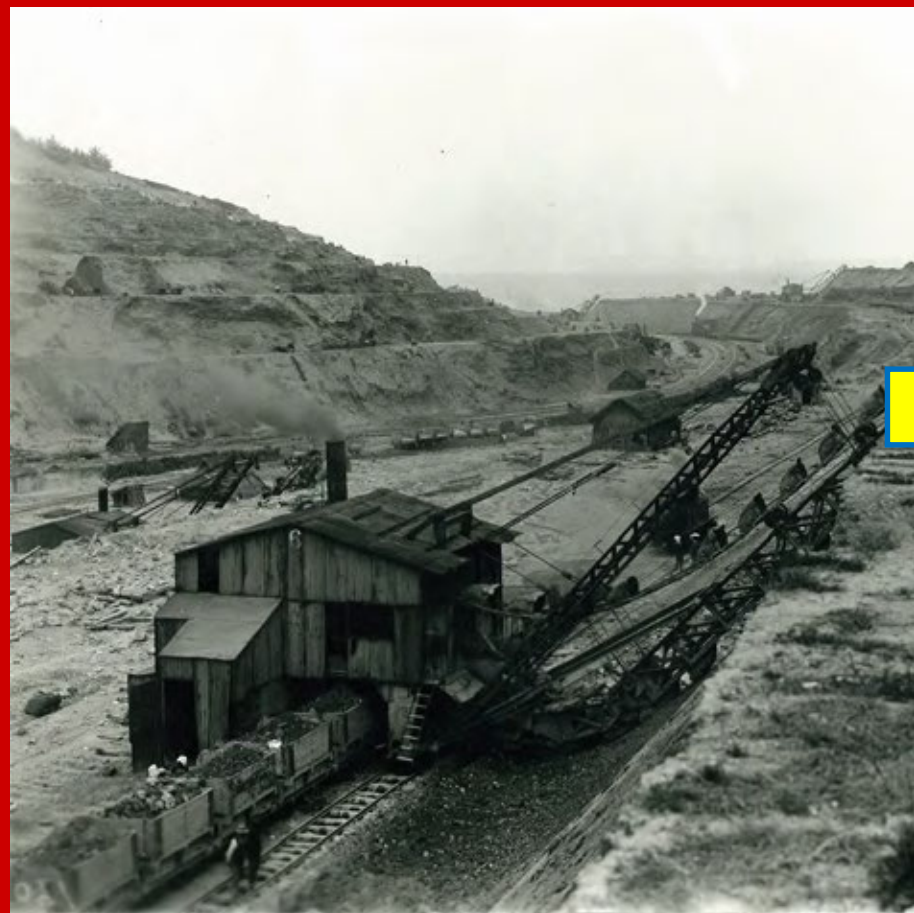


今



- 明治44(1911)年頃に右岸側から撮影。
- 写真中央には掘削機械のエキスカベーター。
- 現在の渡部橋付近。

100年前



今



- 大正3(1914)年頃に撮影。
- 大型機械のエキスカベーターのほか、働いている多くの人たちが確認できる。
- 現在は川底の洗堀を防ぐための新しい第二床固を建設している。

100年前



今



- 大正5(1916)年に撮影。
- 蒸気機関車の奥に掘削中の分水路と日本海が確認できる。
- 現在は新野積橋の建設が進行中。

「一」 「日曜」 第八十三百二千四第 日三十二月三年三十

式工竣水分津河大祝



大河津分水工 事落成式

（三）
（一）
（二）



内務省土木出張所長 渡邊 六郎博士

大河津分 の竣工に 小原

大河津分水の竣工は、日本の歴史に重要な一頁を添えることとなる。この分水は、古くから存在したが、その構造は古く、水の流れが安定でなかった。明治の初め、土木技師小原清が、この分水の改修を計画した。小原氏は、この分水の構造を調査し、その弱点を指摘し、改修の必要を訴えた。その結果、政府は小原氏の計画を採用し、大河津分水の改修工事を開始した。この工事は、大規模な土木工事であり、多くの技術者が参加した。小原氏は、この工事に深く関係し、その完成に貢献した。この竣工式は、小原氏の功績を称えるものでもあり、日本の土木技術の発展を示すものでもある。

大河津分水の竣工は、日本の歴史に重要な一頁を添えることとなる。この分水は、古くから存在したが、その構造は古く、水の流れが安定でなかった。明治の初め、土木技師小原清が、この分水の改修を計画した。小原氏は、この分水の構造を調査し、その弱点を指摘し、改修の必要を訴えた。その結果、政府は小原氏の計画を採用し、大河津分水の改修工事を開始した。この工事は、大規模な土木工事であり、多くの技術者が参加した。小原氏は、この工事に深く関係し、その完成に貢献した。この竣工式は、小原氏の功績を称えるものでもあり、日本の土木技術の発展を示すものでもある。



129'91



功稿 天
信濃川改良工事沿革誌

功稿 地
信濃川改良工事沿革誌

功稿 人
信濃川改良工事沿革誌



田沢実入

- ① 請願者のリーダーとして意見をまとめた
- ② 200年間の水害の資料を集めて本やパンフレットを作った
- ③ 工事の勉強をするために全国の川の工事で働いた
- ④ 大河津分水の工事で働き、政府に地域的情報を伝えた
- ⑤ 大河津分水が完成したら桜を植えた

大河津分水の桜



完成した洗堰と桜 大正13(1924)年頃



地蔵堂駅前の桜並木 昭和初期

おいらん道中



大河津分水路堤防 昭和初期



現在の信濃川大河津資料館の裏手付近 昭和初期



分水路堤防上の蒸気機関車の車庫と桜



桜のトンネルができている 昭和20年代



分水工事起工	明治四十年
竣工	昭和六年六月二十日
總工費	金貳千九百八十萬圓
縣營記念公園	總坪數壹萬五千坪
記念碑	基額 大動位聖院宮藏仁親王陛下 撰文 正三位源一之水野純太郎閣下 書 北田弄鶴氏
碑石	高二十四尺 幅 八尺 厚 壹尺四寸 重量 七千貫
產地	石ノ笥 此價格 三千六百圓
臺石重量	壹萬三千五百貫 產地 彌生
此建設	壹萬五千圓
雙邊四里柳樹栽植	明治四十四年以來 六千本
櫻樹數	
種類	公園內ノ主トシテ八重櫻雙邊ノハ幾井吉野
維持管理	



大氣錄

此豆一星三塊抵樹膠兩磅車動自該地來分



紀念碑

清惠集

寶
店



海山先生



通 明本

水行近道

停車場

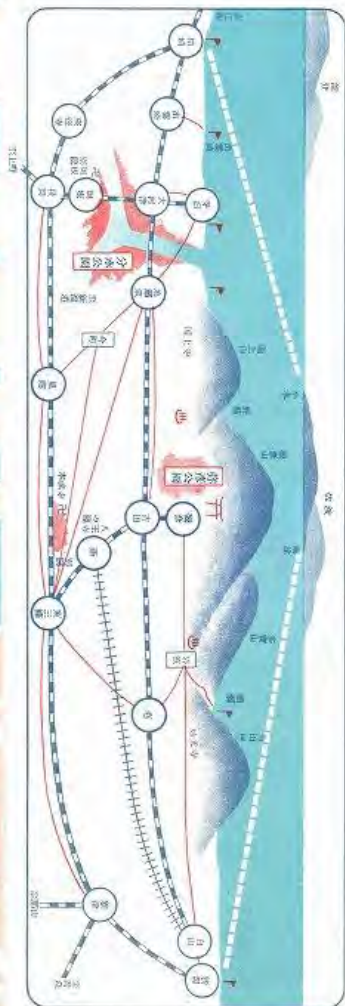


碑文藏地

五千石通

- 一 「調査アト山から分水見れば」
今は寝りのヤレさくら花
- 二 「金のアイ」惣龜尊で名高いとこは
建後清原朝ヤレ徳川
日本に名高い徳川
大河津分水東洋一
朝の嵐の後の里
四好位かしたヤレ冠が磨る
- 三 「梅はアイ」咲いたか樹はまだか
阿ア其りのヤレ風吹やう
- 四 「拂きやアイ」カンザシ入れや中盤
男泣かぜのヤレなげ島田
さうし手拭ふわりとかむり
寺の臺門方たばた行けば
寺の和室はそれ見るより
嘆へがられぬちいれぬとも和室の身なら
呼ぶに呼ばれず手にや掛ぬかれず
星の輝でヤレ見たばかり
五 「竹の切口」こなたなこゝろふりたつよりたまりし水は
波はず節ぐらすヤレ出を破らす
「肥のアイ」海井りや何と云ふて昇ぼる
山を河にしようさヤレ云ふて昇る
徳島愛本町朝霞見やれ
「花魁」
三に三斗豆田に飛ぶ
五には牛舞六犬田
七なればん波り節子親や茶賣り
八ツやまの芋にに寄くわい
十に唐茄子兩瓦がヤレ買も切れた

観光協会・至誠会



信濃川分水火可堅牢

[illegible]

野積西生寺其晴により落岸を望む



大河津分水桜年表その1

植え始め

年号	西暦	できごと
明治40年	1907	大河津分水工事の開始が帝国議会で可決される。
明治42年	1909	大河津分水工事が本格的に始まる。
明治43年	1910	大河津分水に桜を植え始める。
大正11年	1922	大河津分水に初めて水が通る。
大正13年	1925	桜の碑が建立される。 大河津分水の桜を守り、宣伝するための協会「分水路保勝会」が設立される。 会長は田沢実入、副会長は山宮半四郎。分水路保勝会が中心となり約4300本の植樹を行なう。
昭和2年	1927	自在堰が陥没し、信濃川下流は水不足となる。直ちに可動堰の建設に着手する。このとき約2000本の桜が移植されるが、ほとんどが枯れてしまう。

大河津分水桜年表その2

全滅の危機

年号	西暦	できごと
昭和4年・5年頃	1929 1930	地蔵堂料理組合が出資し、桜町（燕市桜町）で仮装行列を行なう。これが、おいらん道中の原型と言われている。
昭和6年	1931	自在堰に代わる可動堰が完成する。
昭和9年	1934	おいらん道中として、大河津分水の桜の下で開催されたといわれる。その後、戦時下のため、おいらん道中は行われなくなる。
昭和19年	1944	戦争のため軍の要請で大河津分水の桜が1000本以上伐られる。
昭和22年	1947	戦争が終わり、おいらん道中が復活する。
昭和25年	1950	大河津分水公園が「佐渡・弥彦国定公園」に指定される。

山宮半四郎

- 田沢実入とともに明治43年に桜を植え始めた一人。
- 有志を募り私財を投じて桜の植樹を推進。大河津分水一帯の公園化にも尽力。
- 戦争で中断したおいらん道中を復活させた。
- 現在は燕市の名誉市民。

山宮半四郎が遺した歌
分水路の桜に別れを惜しみて

千代八千世 変わらで匂い 桜花
植えし翁の 散りしあとにも



明治15(1882)年
～昭和43(1968)年



全晩年肖像



三代徳川家信濃外水主事の
大恩人者
山宮半四郎同封大字古川
三代目田澤實入氏

大正三年八月二日
田澤實入
記

明治二十三年八月二日
東京警署署長入
出立遊藝大集
山梨県知事
深長と云う三十三
東京市土木部長
轉に四十一年水
度起り内務省
土地買収の底
大山十三号竣工
共三故山切
昭和三年四月六日
第七十四
嶺く心か
雲付れて
山嶺、澄み
月を
と形
碑
題



- 地方発展の一助とするため。
- 犠牲になった先人達を慰霊するため。
- 大河津分水の偉業を後世に伝えるため。



- 大河津分水の建設に大きく貢献した人物。
- 明治43(1910)年に桜を植え始めた一人。今日の大河津分水の桜の生みの親。
- 大河津分水の桜を守り伝えるために設立された「信濃川大河津分水路保勝会」の初代会長。

桜之碑に刻まれた田沢実入の歌

いく千春 かはらでにほへ 桜花
植えにし人は よし散りぬとも

敷島の日本こころの佐久良花
堤とと裳に よ露つよもか那



嘉永5(1852)年
～昭和3(1928)年



いく千春
かはらでにほへ
桜花
植えにし人は
よし散りぬとも



千代八千世
変わらで匂い
桜花
植えし翁の
散りしあとにも

大河津分水を
伝える







せ

世代をこえて
水路で守る
まちの安全



せ

さ

桜の木
記念に植えた
大事な木



さ

へ



へ

変化とげ
豊かになった
越後平野

こ

これからも
進化していく
分水路



こ





左上・右上

2021年12月6日

分水小学校資料館ガイド

左下

2021年12月7日

島上小学校の県庁訪問 & ポスター贈呈

お守り
通水石



お弁当
堰弁



スイーツ
河桜記



大河津神社





100

大河津分水 通水100周年
The Ohkouzu Diversion Channel 100th Anniversary